

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区名	浪速区
学校名	木津中学校
学校長名	竹村 弘文

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学・理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
 - ※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題
- (2) 質問紙調査
 - ・生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・木津中学校では、第3学年 44名

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

◆教科に関する調査

国語Aではほぼ全国平均に近い正答率となっている。国語Bと数学Aは全国平均正答率を5ポイント程度下回っている。数学Bでは全国平均正答率を10ポイント以上下回っているが、昨年度よりわずかながら差は縮まっている。理科は全国平均正答率を7ポイント下回っている。平均無解答率は、国語A・B、数学A・B、理科の全てにおいて全国平均を下回り、回答意欲の高さが伺われる。全体として数学・理科に、課題が見られる結果となった。

◆生徒質問紙調査

規範意識は昨年同様全国平均を上回ったが、自尊感情は昨年よりかなり低く全国平均を下回った。学習意欲は今年の3年生は高く全国平均と同程度である。言語活動や読解力、生活習慣に関しては昨年ほどではないが全国平均を下回っている。調査対象人数が少ないため、単純に、全国・大阪市の平均や昨年度調査との比較等でその傾向を分析することは難しいと思われる。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 Aの正答率は、全国よりやや低いものの大阪市を上回っている。Bの正答率は全国や大阪市よりも数ポイント低い。A・Bともに無解答率が全国や大阪市よりかなり低く、昨年度に比べても低い。最後まで問題を解こうとした努力がみられる。分類・区分では、「読むこと」「読む能力」についてはA・Bともに全国より正答率が高く、無解答率も0であり、頑張りがみられる。「書くこと」「書く能力」については、A・Bともに全国平均より低い。自分の考えを書くことを含め、記述式問題の解答率を高める工夫が必要である。

〔数学〕 Aの正答率は全国より約5ポイント、Bの正答率は約10ポイント低い。しかし、無解答率は全国平均より低く、問題を解こうとする努力はみられる。分類・区分では「図形」や「資料の活用」の領域で正答率が全国をかなり下回っている。記述式問題・短答式問題も弱点と思われる。基礎的・基本的な知識・技能の定着と数学への意欲・関心を高めることが必要である。

〔理科〕 全国平均に比べ、正答率は約7ポイント低い。知識に関する問題に比べて、活用に関する問題が弱く、領域別では地学は全国と同程度、物理・化学は低く、生物はかなり低い結果となった。「理科の授業はよくわかる」に対する肯定的な回答は全国よりかなり高く関心は高いので、学んだ知識・技能をもとに実験・観察を通して考察する力を高めることが課題である。

質問紙調査より

国語や理科の「授業の内容がよくわかる」「大切だと思う」に対する肯定的な回答が全国よりかなり高く、授業内容や指導方法の工夫に一定の成果があったと考えられる。また、「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか」について肯定的回答の割合が全国平均よりかなり高く、無回答率の減少につながっている。「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は全国平均より低い。経年比較でも肯定的回答の割合が下がっている。読書活動には力を入れているが読書意欲を高める工夫が求められる。規範意識は今年も高く、本校の毎年の特色である。本校は、学習規律の維持を徹底しており、それが生徒の規範意識の向上と遵守につながっている。一方で、地域や社会への関心やニュースを見る割合は低い状況である。「1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うか」に対する肯定的回答の割合が高く、言語力や論理的思考力の育成ははかられていたと考えられる。各教科の平均正答率と、質問紙の回答の相関関係については、調査対象人数が少人数のため必ずしも一致しない。

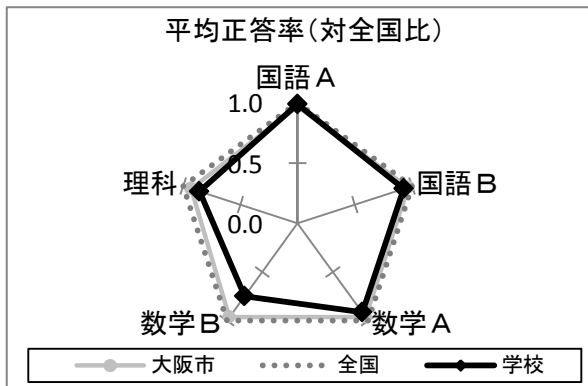
今後の取組

本校では、これまで習熟度別少人数授業をはじめ、補充学習・放課後学習会・中3集中学習会や個別学習指導等、個々の状況に応じたきめ細かい指導を継続してきている。国語Aの「読むこと」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の各項目で全国平均を上回り、「話す・聞くこと」「話す・聞く能力」と数学Aの「数と式」領域の結果が、全国平均と大きな開きがないことから、一定の成果をあげていると考えられる。今後、国語の「書く力」、数学の「資料活用力」を高める取り組みをすすめていく。また、理科においては、生物学的領域の指導に力をいれる。図書館の活性化をはかるため、学校図書館補助員事業を活用しながら、読書への関心を高め、読書活動の定着をはかる。言語力や論理的思考能力の育成については、年度ごとに肯定的な回答の割合が高まっており、今後も引き続き、相互授業参観や研究授業、電子黒板の活用等で指導方法を工夫し、話し合い活動、調べ学習の定着をはかっていく。規範意識や自尊感情については、今後も学校行事や特別活動等の取り組みを通じて、生徒が充実した学校生活が送れるようにし、肯定的回答の割合が高い状態を維持する。基本的な生活習慣や家庭学習習慣の定着に向け、小学校とも連携しながら保護者への啓発をはかっていく必要がある。

【 全体の概要 】

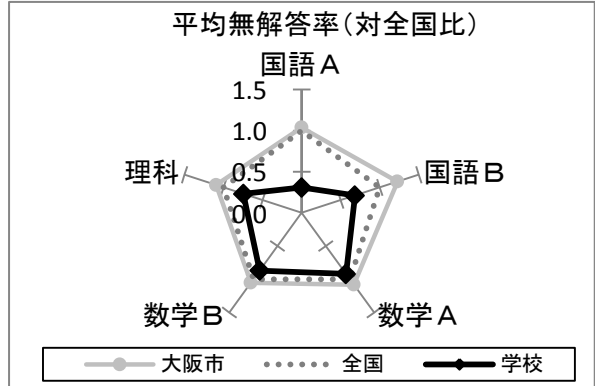
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
学校	75.0	61.1	58.9	31.2	45.5
大阪市	73.5	63.6	62.0	40.1	49.3
全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0



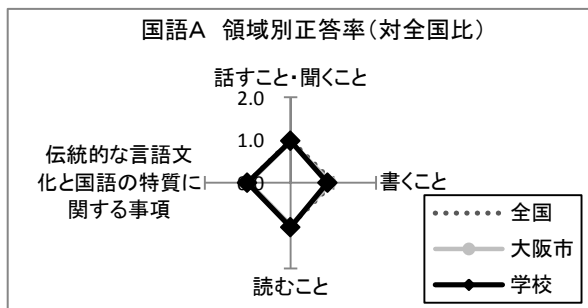
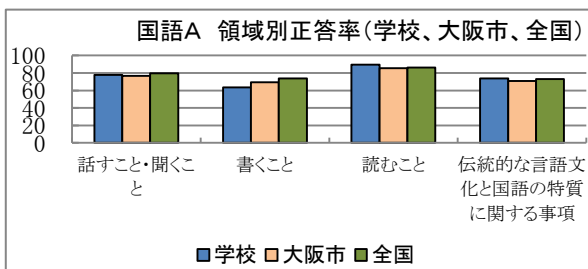
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
学校	0.8	1.5	3.4	13.3	5.2
大阪市	2.7	2.7	4.0	16.1	7.6
全国	2.6	2.2	3.7	15.3	7.0

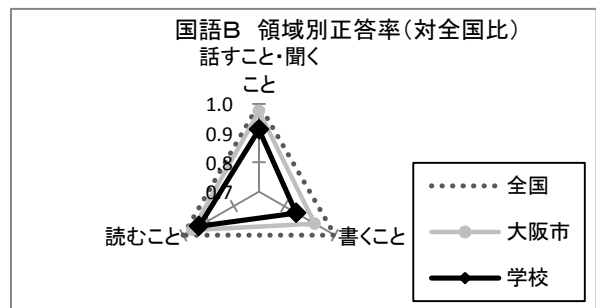
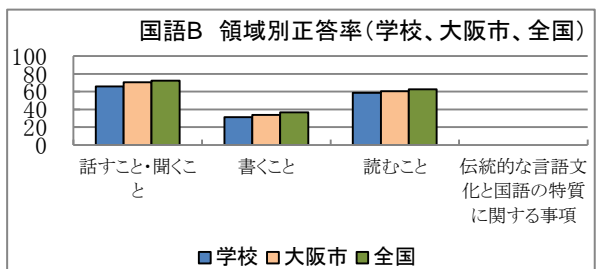


【 国 語 】

A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	77.8	76.6	79.7
	書くこと	5	63.6	69.3	73.6
	読むこと	5	89.5	85.5	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	19	73.6	70.7	72.9

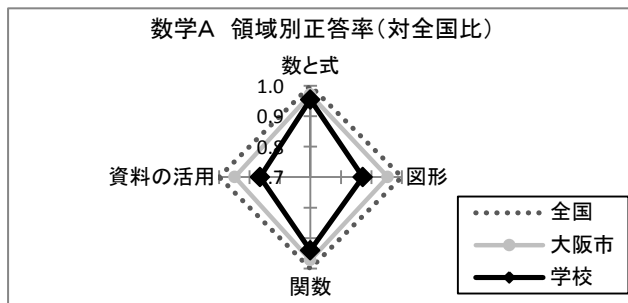
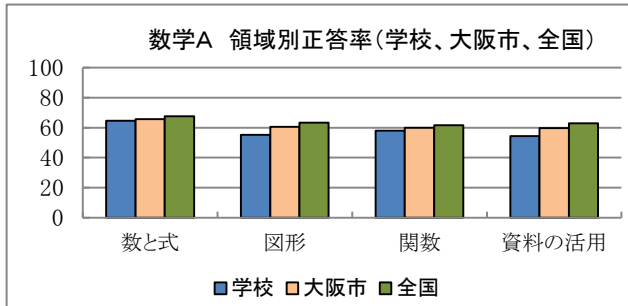


B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	65.9	70.4	72.2
	書くこと	3	31.1	33.8	36.7
	読むこと	6	58.7	60.3	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—

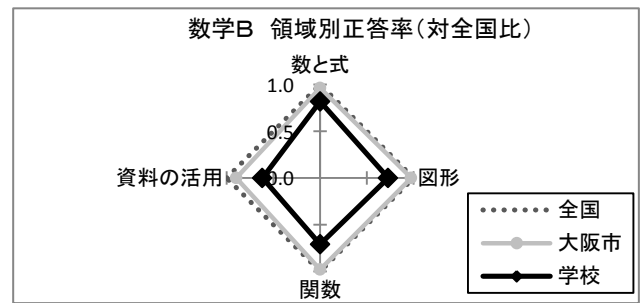
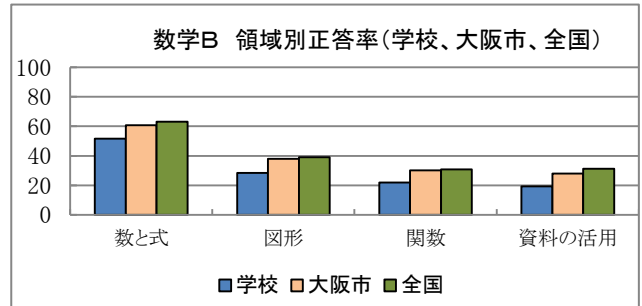


【 数 学 】

A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	12	64.6	65.7	67.7
	図形	12	55.3	60.5	63.4
	関数	8	58.0	60.0	61.7
	資料の活用	4	54.5	59.7	63.0

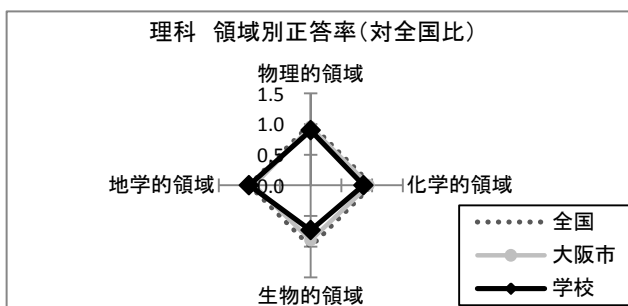
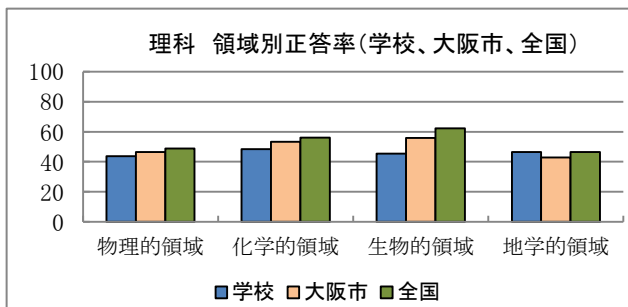


B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	4	51.7	60.8	63.2
	図形	4	28.4	38.0	39.0
	関数	5	21.8	30.1	30.7
	資料の活用	2	19.3	28.0	31.2



【 理 科 】

			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	物理的領域	7	43.8	46.4	48.9
	化学的領域	7	48.4	53.3	56.2
	生物的領域	6	45.5	55.8	62.2
	地学的領域	6	46.6	42.9	46.4



生徒質問紙より

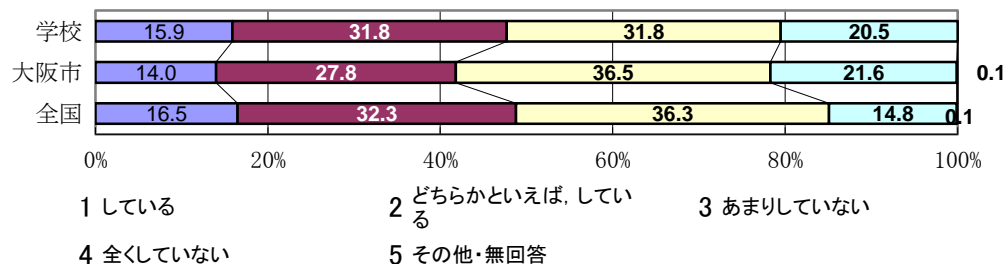
1 2 3 4 5 6 7 8 9

質問番号

質問事項

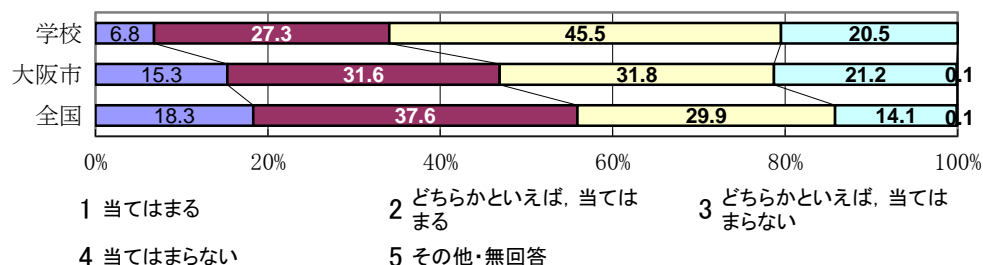
20

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



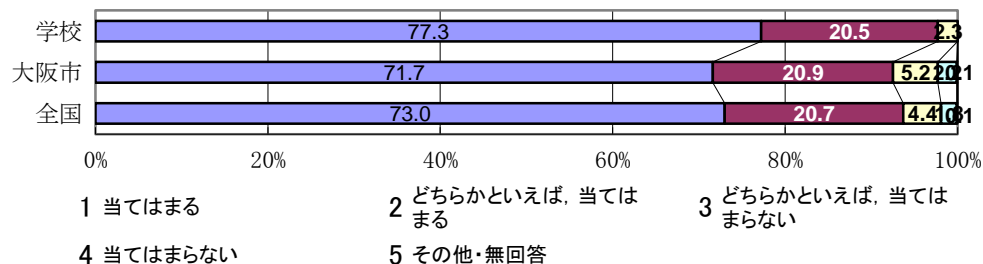
28

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



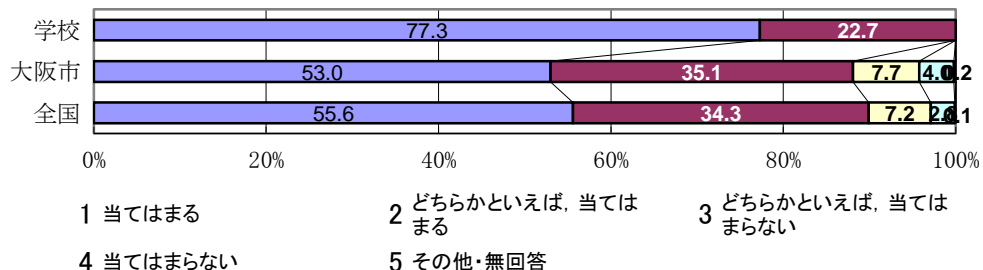
34

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



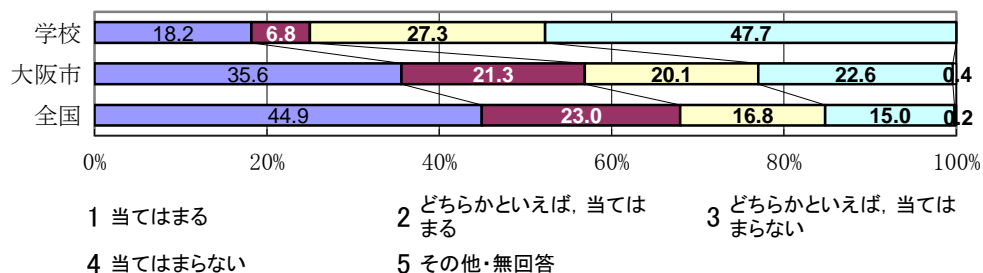
49

国語の勉強は大切だと思いますか



51

読書は好きですか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

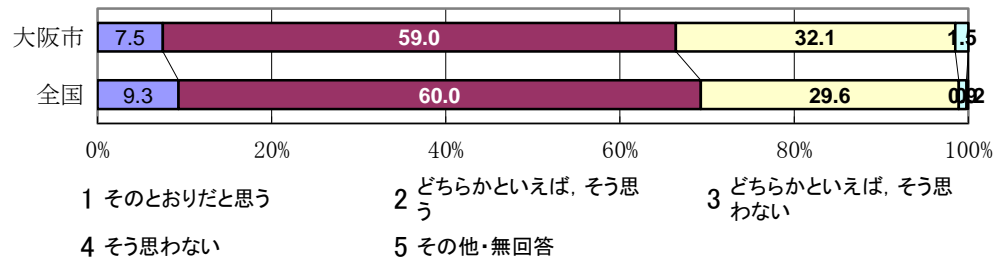
質問番号

質問事項

19

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていますか

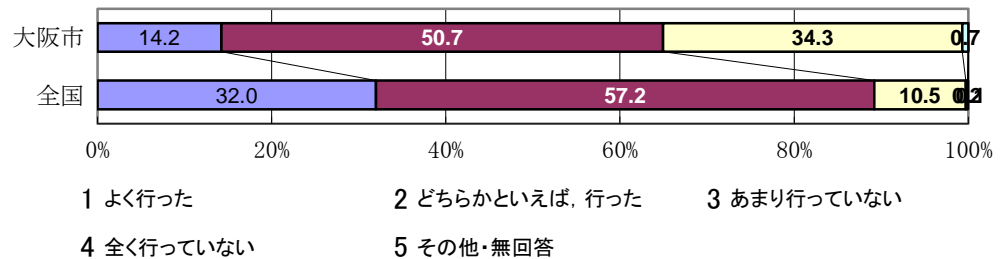
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



35

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか

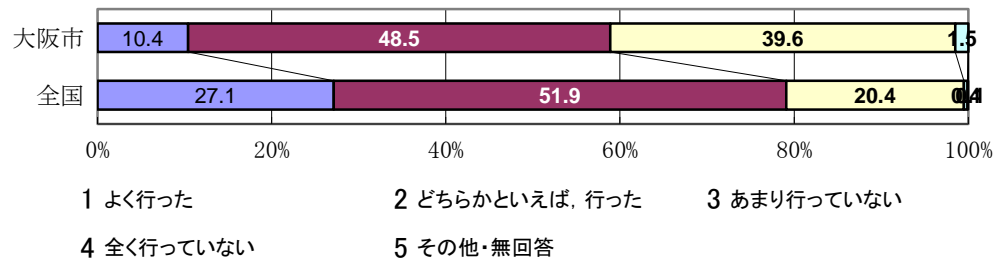
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



36

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか

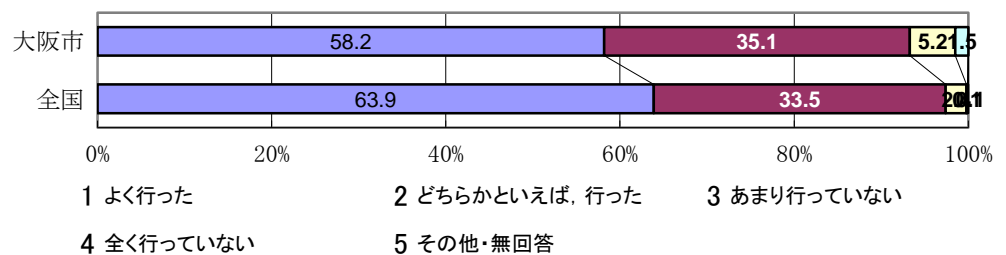
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



44

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか

学校 「よく行った」を選択



108

学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

